

大洲だより

創刊号

平成 27年
10月発行

～新しくなる 肱川橋とともに 大洲の町を再発見～

臥龍院から望む庭。冬になると葉が落ち、
肱川が目の前に



清流肱川と富士山を借景とした、
大洲随一の景勝地、殿様や豪商も愛した
四季折々の美しさに憩う 臥龍山荘

町の雰囲気、風情が京都に似ていることから、「伊予の小京都」と呼ばれる大洲。住み慣れた街ではあるけれど、意外とじっくり巡ってみたいことはないかも…と思いついたのが吉日。窓の外に目をやれば、見事な秋晴れのおでかけ日和。地元再発見！とばかりに家を飛び出したのである。

悠々と流れる肱川を眺め、観光客に紛れて久しぶりに「おはなはん通り」や「明治の家並」を散策しながら、たどりついたのは、平成23年、ミシュラン・グリーンガイド・ジャポンで1ツ星を獲得した「臥龍山荘」。

肱川随一の景勝地・臥龍淵を見下ろす丘に建つ、約3000坪の山荘庭園だ。この美しい肱川湖畔に初めて庭園が築かれたのは文禄年間のことだったという。その後、この地は大洲藩第三代藩主加藤泰恒によって「臥龍」と命名され、歴代藩主の遊賞地として愛されてきたが、明治以降は荒廃していた。では、現在の「臥龍山荘」はいかにして生まれたのか。それは、明治時代後期のこと。大洲出身の貿易商河内寅次郎がこの素晴らしい景勝を気に入り、「老後の余生を過ごしたい」とここに別荘を築造したのだ。明治30年頃から実に構想10年、9千人もの人手を有し、約4年の歳月を経て完成へと至った。地元大工中野寅雄を中心に、京都から熟練の職人を招聘。屋久杉など厳選された素材を取り寄せるなど、当時としては最高の技術を結集し、細部に至るまで巧みの技が活かされた山荘は、「臥龍院」「知止庵」「不老庵」という3つの建物と庭園から成り立っている。



電話番号 0893-24-3759
営業時間 9:00~17:00 (礼止16:30) 年中無休
※駐車場は大洲まちの駅あさもやのご利用をお勧めします (無料)



上から見た肱川を表現した石垣。
左側に船、右上の丸い石は、川面に
映る月を表している

紅葉が色づき、庵を華やかに染める様をしばし眺めながら、冬は、次の春はどんな表情を魅せてくれるのか…と、既に再び訪れる日に思いを馳せる自分がいた。

四季を感じさせるのは紅葉に彩られた庭園だけではなく、それぞれの庵では、四季や松竹梅、わびさびを表現した粋な意匠を見ることができた。スタッフさんの説明に耳を傾けながら、庭園をさらに奥に進み、崖の上に建つ「不老庵」へ。庵から見る肱川の眺めは圧巻の美しさで、しばし時間を忘れて見入ってしまった。ここでは4月から10月までの日曜日と祝日はお茶席を利用できるので、肱川を借景に先生の点てるお茶をいただくのもオツなもの。



イベント&トピックス

おおず浪漫祭

開催日/11月3日
開催場所/大洲市肱南地区 ポコベン横丁、おおず赤煉瓦館、おはなはん通り ほか

昭和30年代の空気漂うポコベン横丁を中心に、おはなはん通りの周辺にはなつかしの露店が立ち並び、子どもはもちろん、大人も懐かしさを感じながら楽しめる。ポコベン横丁でのステージイベントにも注目!



もみじまつり

開催期間/11月1日~11月30日
開催場所/大洲市新谷地区 稲荷山公園

稲荷山公園では、樹齢200年の老楓など、約3000本の紅葉が見頃を迎える。まつりの期間中には露店も立ち並び、市内外からたくさんのお客様が賑わう。赤や黄色に色づいた美しい紅葉をカメラに収めてみては?



3種のキノコのカルボナーラうどん 700円
秋の新作。提供は12月頃まで



麵も心意気もまつすぐ!
熱い三代目が大洲を盛り上げる

郷土の味をたぎね

白石うどん

昭和12年創業の白石うどんは、初代から現在まで手延べを貫いている。温度や湿度によって微妙に変化する生地の状態を見極め、一本一本手で延ばしていく。それはひとえに、鍛錬の賜物だ。三代目も、子どもの頃から戦力の一人として、初代、二代目に教わりながら、その作業を繰り返してきたという。包丁で切る麺とは違う、まるみのある麺。そのやさしい喉越しを守っていくため、三代目は今日も朝5時から仕込みに励んでいる。

伝統を守るとともに、新作への並々ならぬ意欲を燃やしているという三代目。「僕ら若い世代が楽しみながらどんどんアクションを起こしていきたい」と、まちおこしにも積極的だ。



住所 大洲市大洲880-12
電話番号 0893-24-2614
営業時間 10:30~17:00 (麺切れ終了)
定休日 日曜不定



肱川橋架替工事リポート①

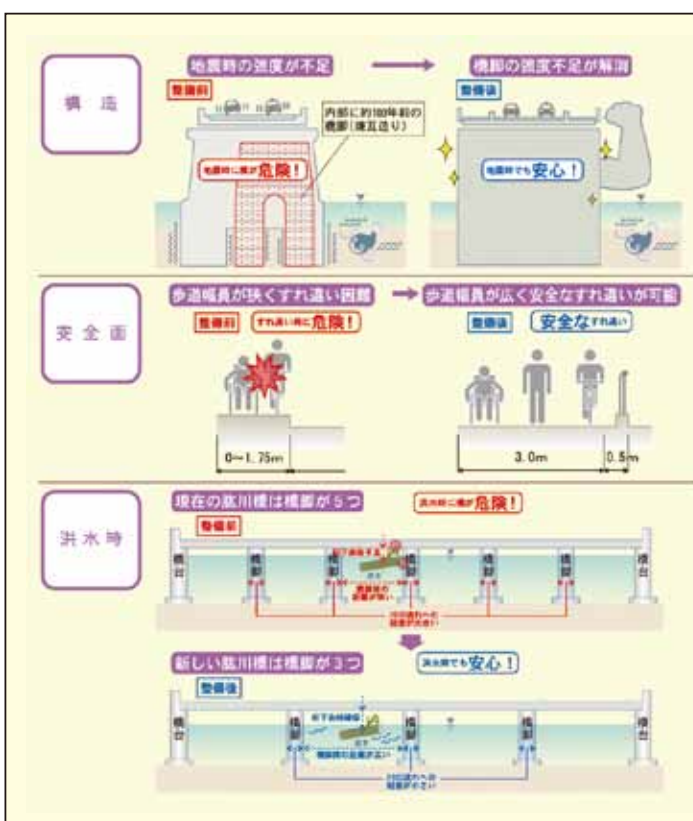
今回、肱川橋が建造後約100年が経過し、老朽化が進んでいることから耐震性が弱く、河積阻害している等の問題解消のために新しく架替えることになりました。現在は谷本建設工業株式会社が工事を担当しています。

工事内容としては、仮橋を設置する橋台を施工中で右岸側の橋台のH鋼杭を打込み、鉄筋及び型枠を組立てコンクリートの打設作業を行い、型枠を解体して養生中です。又、仮橋の設置を行う仮橋橋を施工する為に、必要な工事用道路の施工も行ってあります。

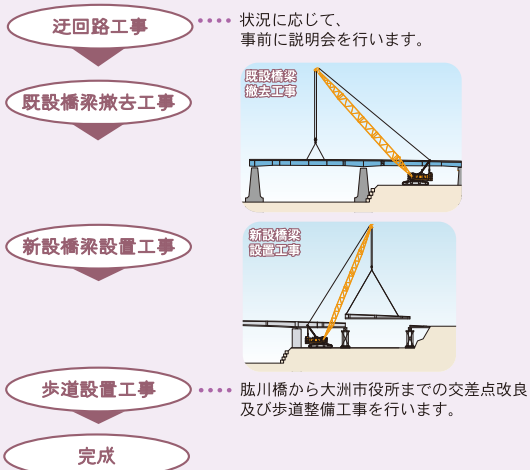
これからも工事を進めるにあたり、安全性の配慮に心がけ、無事故・無災害で住み良い大洲にするために、工事関係者一同一致団結して頑張りますので、今後ともご協力をお願いいたします。

肱川橋架替整備効果

- 1 地震時の耐震性の不足が解消され、地震でも安心。
- 2 歩道幅員が狭くすれ違い困難だったが、歩道幅員が広くなることで、安全なすれ違いが可能になります。
- 3 現在の肱川橋は橋脚が5つで洪水時には川の流れへの阻害が大きいが、橋脚が3つになることで、桁下に余裕が確保され、川の流れへの阻害が小さくなり、洪水時でも安心。



工事の流れ



▲養生中の橋台



▲仮橋橋施工の為の工事用道路

▼完成イメージ▼



▼新しい肱川橋



▲現在の肱川橋

歴史の薫る大洲市。その商店街には、代々受け継がれている、活気のあるお店が立ち並んでいます。



ホワイトクリーニング

どんなしみにも挑み続ける、三代目の熱意にふれて

創業70年。映画「がんばっていきまっしょい」のロケ地としても知られている老舗クリーニング店。二代目と三代目が並んでアイロンがけの仕上げ作業をする様子を外から見られるが、工場での作業が主流となった今では、これも珍しい光景ではないだろうか。商店街を象徴する風景として、地元の人々に親しまれている。



そんな「ホワイトクリーニング」がここまで愛されてきたのには、さらなる理由があった。その一つが、三代目・中岡達哉さんが惜しみない情熱を注ぐ「しみ抜き」。「新品同様の美しさを取り戻してお返しするのが理想」と語る中岡さんは、高知県を拠点とするしみ抜き専門の流派「不入流」に入門して早14年。今でも毎月1回程度の勉強会に参加し、進化を続けるしみ抜き技術の修得に余念がない。しみや生地の種類によって30種類の薬品を使い分け、「これだけ頑張りました」という過程はお客様にとってはどうでもいいこと。消すことができれば意味がない。お金をいただく以上は、キレイになったという結果が求められます」と、その言葉に並々ならぬ覚悟を感じる。ただ白くすることが求められる「漂白」から素材そのものの白を取り戻す「美白」へ。中岡さんの挑戦はこれからも続く。



住所/大洲市中村537-2
電話番号/0893-24-3476
営業時間/8:00~19:00
定休日/日曜、年末年始

柿見時計店

時計のように、お客様の人生のパートナーでありたい。初代は日本を代表する時計メーカー「SEIKO」の修理工を生業とし、時代の流れとともに眼鏡やジュエリー、補聴器などを幅広く展開。現在は、二代目と三代目を中心に、家族総出で店を切り盛りしている。

創業から65年を数える今まで、大切にしているのは「地域に根付いた、愛のある店であり続ける」ということ。「大手ならば、時代の流れを読み取り、トレンドに合わせて新たな商品を展開していくスピードが求められますが、柿見時計店に求められているのは、地域の方々の需要にお応えすること。お客様と一対一のお付き合いをさせていただく中で、改めてその大切さを感じました」と三代目・柿見亮介さん。その言葉通り、高価な時計やジュエリーを扱う店とは思えないほど、アットホームな雰囲気。また、初代から続く時計の修理相談においては、どんな品でも、どんな状態でも、はじめからNOとは決して言わないという。「時計は、人生のパートナーとして思い入れのある方も多くいらっしゃいます。対話の中でしっかりと思いを引き出し、お客様に寄り添うサービスをさせていただくことが、我々の使命です」と話す亮介さんと笑顔の家族のみなさん。常連さんまでもが「いらっしやい」と迎えてくれる、その店内とはびきり温かかった。



住所/大洲市常磐町4-82
電話番号/0893-24-3667
営業時間/9:00~19:30
年内無休

